

デーヴォ ガイド



2024.1.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

3:20 さて、イエスは家に戻られた。すると群衆が再び集まって来たので、イエスと弟子たちは食事をする暇もなかった。

3:21 これを聞いて、イエスの身内の者たちはイエスを連れ戻しに出かけた。人々が「イエスはおかしくなった」と言っていたからである。

3:22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼はベルゼブルにつかわれている」とか、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出している」と言っていた。

3:23 そこでイエスは彼らを呼び寄せて、たとえて語られた。「どうしてサタンがサタンを追い出せるのですか。

3:24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。

3:25 もし家が内部で分裂したら、その家は立ち行きません。

3:26 もし、サタンが自らに敵対して立ち、分裂したら、立ち行かずに滅んでしまいます。

3:27 まず強い者を縛り上げなければ、だれも、強い者の家に入って、家財を略奪することはできません。縛り上げれば、その家を略奪できます。

3:28 まことに、あなたがたに言います。人の子らは、どんな罪も赦していただけます。また、どれほど神を冒瀆することを言っても、赦していただけます。

3:29 しかし聖霊を冒瀆する者は、だれも永遠に赦されず、永遠の罪に定められます。」

3:30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは汚れた霊につかわれている」と言っていたからである。

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちがやって来て、外に立ち、人を送ってイエスを呼んだ。

3:32 大勢の人がイエスを囲んで座っていた。彼らは「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」と言った。

3:33 すると、イエスは彼らに答えて「わたしの母、わたしの兄弟とはだれでしょうか」と言われた。

3:34 そして、ご自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「ご覧ください。わたしの母、わたしの兄弟です。

3:35 だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

神様に従わない人はあらゆる言い訳や理屈を考えるものです。批判者はよりによってイエス様が「悪霊どものかしらによって」わざを行っていると言主張しました。神の国では、言い訳や理屈を駆使できるような言葉巧みな人が尊重されるではありません。聖霊に従う人が尊重され用いられます。

ですからイエス様は「聖霊を冒瀆する者はだれでも、…とこしえの罪に定められます」と言われました。「神を冒瀆することを言う」のも同じような罪であるし、どんな罪でもイエス様の十字架によって赦されるはずではないか…とも思いますが、赦しはみな聖霊の示しがあればこそ成り立つものです。すなわち聖霊を冒瀆してしまえば、赦しの信仰は成り立たないのです。また聖霊によらなければ十字架を自分の罪の赦しと関連付けられないのです。

つまり聖霊を冒瀆する者は、十字架の赦しを信じられないのです。ですから聖霊が働いておられることを感じたなら、聖霊に逆らわないように気をつけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 火曜

マルコ



4:1 イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。非常に多くの群衆がみもとに集まったので、イエスは湖で、舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな、湖の近くの陸地にいた。

4:2 イエスは、多くのことをたとえによって教えられた。その教えの中でこう言われた。

4:3 「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。

4:4 蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。

4:5 また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったのですぐに芽を出したが、

4:6 日が昇るとしおれ、根つかずに枯れてしまった。

4:7 また、別の種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びてふさいでしまったので、実を結ばなかった。

4:8 また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育てて実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」

4:9 そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

4:10 さて、イエスだけになったとき、イエスの周りにいた人たちが、十二人とともに、これらのたとえのことを尋ねた。

4:11 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。

4:12 それはこうあるからです。『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることのないように。』」

4:13 そして、彼らにこう言われた。「このたとえが分からないのですか。そんなことで、どうしてすべてのたとえが理解できるのでしょうか。

4:14 種蒔く人は、みことばを蒔くのです。

4:15 道端に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばが蒔かれて彼らが聞くと、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを取り去ります。

4:16 岩地に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れますが、

4:17 自分の中に根がなく、しばらく続くだけです。後で、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまします。

4:18 もう一つの、茨の中に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたのに、

4:19 この世の思い煩いや、富の惑わし、そのほかいろいろな欲望が入り込んでみことばをふさぐので、実を結ぶことができせん。

4:20 良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。」

イエス様のみわざを見て、話を聞いた人たちは大勢いましたが、誰でもそれで信じるというわけではありませんでした。人には自由意志が与えられているので、信じるのも信じないものその人が決定するのですから、群衆の中には信じない人も出ます。

また多くの群衆はイエス様を十字架に追いやりました。そのためにもまだ多くの人の目に覆いがかけられていたということも言えます。私たちは

その意味を知り、そして自分自身を悟りましょう。

すなわち…サタンにみことばを持って行かれないように、喜んで聞いても根無しで終わることなく迫害や困難に負けないように、世の惑わしに負けないように。そしてみことばを聞いて受け入れ、多くの実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 10日 水曜

マルコ



4:21 イエスはまた彼らに言われた。「明かりを持って来るのは、灯の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。」

4:22 隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので、明らかにされないものはありません。

4:23 聞く耳があるなら、聞きなさい。」

4:24 また彼らに言われた。「聞いていることに注意しなさい。あなたがたは、自分が量るその秤で自分にも量り与えられ、その上に増し加えられます。」

4:25 持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているものまで取り上げられてしまうからです。」

4:26 またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、

4:27 夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。

4:28 地はひとりでに実をならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。

4:29 実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」

私たちは世の人々にとっての「明かり」であり、光です。神様の希望の光を明らかに生きましょう。イエス様を恥とする者は、神に恥とされます。主を伝える者には祝福があります。

人を自分の基準で評価したり、批判したりするクリスチャンもいますが、同じように神様から評価・批判されていることを知る必要があります。むしろ感謝し、良いところに目を留めましょう。主は私の量り（基準）で私を量られるのですから、もしもそ

れが寛大なものであったなら、主は私に寛大にしてくださいのです。

「神の国」とは天国のことだけではありません。ことばの本来の意味は、神の支配ということですから。その永遠のものが天国ですが、ここで語られることは、神が支配なさる領域ではどのようになるかということです。人の救いも、神のみわざも、世の中の動きも、すべて神のみこころが起こるときには、人の作為的な手によらないものです。ただし主は私たちをも参加させてくださるために、使命を与えてくださいます。種蒔きがその一つです。主の愛を動機として主のみわざを期待する種を蒔きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 木曜

マルコ



4:30 またイエスは言われた。「神の国はどのようにたとえたらよいでしょうか。どんなたとえで説明できるでしょうか。」

4:31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときは、地の上のどんな種よりも小さいのですが、

4:32 蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張って、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」

4:33 イエスは、このような多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。

4:34 たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。

4:35 さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。

4:36 そこで弟子たちは群衆を後に残して、イエスを舟に乗せたままお連れした。ほかの舟も一緒に行った。

4:37 すると、激しい突風が起こって波が舟の中にまで入り、舟は水でいっぱいになった。

4:38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生。私たちが死んでも、かまわないのですか」と言った。

4:39 イエスは起き上がって風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、すっかり凪になった。

4:40 イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」

4:41 彼らは非常に恐れて、互いに言った。

「風や湖までが言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなのだろうか。」

「神の国」とは神の支配です。私たちは祈ることによって神の支配を求めみわざを期待します。それは信仰の表れです。ですから信仰とは大きい小さいではなく、あるかないかなのです。自分の信仰の大きさ（純粋さや立派さや強さなど）を誇ることは無意味です。また信仰の小ささ（弱さなど）で卑屈になる必要もありません。信仰があれば良いのです。信仰があるならそのように行動しましょう。

嵐の海のような恐れがあっても、主は信仰のある者ともいてくださるので、嵐は止むのです。信仰を持っていることを自覚して、そこに主の力が働くことを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 金曜

マルコ



5:1 こうして一行は、湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。
5:2 イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊につかれた人が、墓場から出て来てイエスを迎えた。
5:3 この人は墓場に住みついていて、もはやだれも、鎖を使ってでも、彼を縛っておくことができなかった。
5:4 彼はたびたび足かせと鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまい、だれにも彼を押さえることはできなかった。
5:5 それで、夜も昼も墓場や山で叫び続け、石で自分のからだを傷つけていたのである。
5:6 彼は遠くからイエスを見つけ、走って来て拜した。
5:7 そして大声で叫んで言った。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのでですか。神によってお願いします。私を苦しめないでください。」
5:8 イエスが、「汚れた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。
5:9 イエスが「おまえの名は何か」とお尋ねになると、彼は「私の名はレギオンです。私たちは大勢ですから」と言った。
5:10 そして、自分たちをこの地方から追いささないでください、と懇願した。
5:11 ところで、そこの山腹では、おびたしい豚の群れが飼われていた。
5:12 彼らはイエスに懇願して言った。「私たちが豚に入れるように、豚の中に送ってください。」
5:13 イエスはそれを許された。そこで、汚れた霊どもは出て行って豚に入った。すると、

二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖へなだれ込み、その湖でおぼれて死んだ。
5:14 豚を飼っていた人たちは逃げ出して、町や里でこのことを伝えた。人々は、何が起こったのかを見ようとやって来た。
5:15 そしてイエスのところに来ると、悪霊につかれていた人、すなわち、レギオンを宿していた人が服を着て、正気に返って座っているのを見て、恐ろしくなった。
5:16 見ていた人たちは、悪霊につかれていた人に起こったことや豚のことを、人々に詳しく話して聞かせた。
5:17 すると人々はイエスに、この地方から出て行ってほしいと懇願した。
5:18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人がお供させてほしいとイエスに願った。
5:19 しかし、イエスはお許しにならず、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい。」
5:20 それで彼は立ち去り、イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

イエス様は政治や医療制度を改革したのではなく、人の霊的な問題を解決して、その結果、政治や医療でもできない幸いを与えられました。それは教会の使命でもあります。

しかし自分中心な人々は、自分たちの収入の方がこの哀れな男の解放よりも優先でした。せっかくのイエス様を去らせてしまったのです。そこに

神を無視する世の中の現実があります。

私たちはこの男のように縛られていた者であり、また解放された者です。伝道には立派な知識や理論武装は必ずしも必要ありません。「どんなにあわれんでくださったか」を、知らせましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13日 土曜

マルコ

5:21 イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

5:22 すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、

5:23 こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」

5:24 そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。すると大勢の群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人がいた。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったの

か』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

5:35 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」

5:36 イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

5:37 イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒に行くのをお許しにならなかった。

5:38 彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、

5:39 中に入って、彼らにこう言われた。

「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだものではありません。眠っているのです。」

5:40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。

5:41 そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。



5:42 すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。

5:43 イエスは、このことをだれにも知らせないようにと厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるように言われた。

癒しのために信仰を働かせた人たちのことが書かれています。共通なのは、どれだけ祈ったかではなく、またどれだけレベルの高いことばで祈ったかでもなく、ただ主イエスの力を信じていたということです。ヤイロはイエス様の祈りを求め、女性はイエス様の着物に触りました。行動は違いますが、イエス様への期待は一緒です。

またこの女性はイエス様に「真実をすべて話した。」とあります。願いとともに心の悩みや痛みまでも、主に委ねて癒されたと思われれます。そのような祈りは幸いです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





- 6:1 イエスはそこを去って郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。
- 6:2 安息日になって、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った。「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。この人に与えられた知恵や、その手で行われるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう。」
- 6:3 この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。
- 6:4 イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」
- 6:5 それで、何人かの病人に手を置いて癒やされたほかは、そこでは、何も力あるわざを行うことができなかった。
- 6:6 イエスは彼らの不信仰に驚かれた。それからイエスは、近くの村々を巡って教えられた。
- 6:7 また、十二人を呼び、二人ずつ遣わし始めて、彼らに汚れた霊を制する権威をお授けになった。
- 6:8 そして、旅のためには、杖一本のほか何も持たないように、パンも、袋も、胴巻の小銭も持って行かないように、
- 6:9 履き物ははくように、しかし、下着は二枚着ないようにと命じられた。
- 6:10 また、彼らに言われた。「どこでも一軒の家に入ったら、その土地から出て行くまでは、その家にとどまりなさい。」

- 6:11 あなたがたを受け入れず、あなたがたの言うことを聞かない場所があったなら、そこから出て行くときに、彼らに対する証言として、足の裏のちりを払い落としなさい。」
- 6:12 こうして十二人は出て行って、人々が悔い改めるように宣べ伝え、
- 6:13 多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人を癒やした。

マルコによる福音書はローマ人的な人々を対象に書かれたと理解できます。すなわち功利主義的ともいえるような、現実主義的な人々です。ここではイエス様は”力に満ちた御父のしもべ”という面が強調されています。確かに5,6節ではイエス様がすばらしい御力によって次々に、奇跡のわざを行う様子が記されています。

私たちもイエス様のみわざを期待して祈り求めますが、ここから大切なことを学ぶことができます。第一にはイエス様でさえ御父のご計画を成し遂げるしもべであって、そこには優先順位があるということです。人々にご自分のメシアであることを知らしめるために、他の人（長舌をわづらった女性）も癒す必要があったのです。

ですから第二には、私たちは自分のことが後回しになったとしても、「恐れなくて、ただ信じて（5章）」待つべきであるということです。

また郷里の人々が不信仰であったので、「何も力あるわざを行うことができなかった。」とあります。

第三には、人が信じないのなら、一人の人に固執することなく、別の人を招くことを優先なさるといことです。または機が熟すまで待たれるということです。

主のみわざを願うときには、よく主のみこころを知って理解するようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

